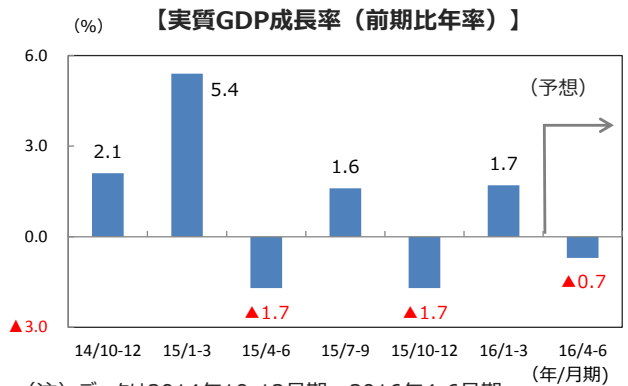


今日のトピック 日本のGDP速報値と政策対応

景気実態は力強さを欠き、政策対応が望まれる

ポイント1 1-3月期は1.7%成長 うるう年の影響で実態は横ばい

■内閣府が18日発表した2016年1-3月期の実質GDP成長率（一次速報）は、前期比+0.4%、同年率+1.7%と2四半期ぶりのプラス成長となりました。市場コンセンサス（前期比年率+0.3%、ブルームバーグ集計）を大きく上回りました。しかしながら、うるう年の影響を考慮すれば実態は強くないとみられます。2015年4-6月期以降、全体として景気の足踏み状態が続いています。



(注) データは2014年10-12月期～2016年4-6月期。
2016年4-6月期は三井住友アセットマネジメントの予想。
(出所) 内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 熊本地震で4-6月期は減速 追加の景気対策が必要

- 4-6月期は、熊本地震の影響を受けた生産活動や消費の停滞などから成長率は再びマイナスに転換すると予想しています。景気の持ち直しは7-9月期以降に後ずれする見込みです。
- 今後の景気下振れを回避するため、政府は今夏の参院選を前に、政策を総動員する姿勢を示すと考えられます。内容は①消費税率引き上げ見送り、②財政出動、③追加金融緩和が想定されます。株式市場では既に政府、日銀の政策対応を織り込みつつあります。

【1-3月期実質GDPの需要項目別伸び率、寄与度】

	前期比 (%)	寄与度 (%)
国内総生産	0.4	-
個人消費	0.5	0.3
住宅投資	▲0.8	▲0.0
設備投資	▲1.4	▲0.2
民間在庫	-	▲0.0
公的需要	0.6	0.2
純輸出	-	0.2

(注) データは2016年1-3月期。
(出所) 内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 サミットに向けて、3つの政策が期待される

■消費税率引き上げの見送りについては頻りに報道されているため、株式市場ではかなり織り込んでいるとみられ、新たなポジティブ材料とはなりそうにありません。注目は財政政策の規模です。5兆円規模の財政出動はある程度織りこまれていたとみられるた

め、より大規模となれば市場に好感されそうです。金融政策については、量、質、金利のバランスのとれた政策が望まれます。伊勢志摩サミットに向けて、3つの政策への期待が高まれば株式市場へのプラス効果が見込まれます。

ここもチェック! 2016年 5月 2日 円高の急伸を背景に日本株式は大幅安 2016年 4月28日 日銀の金融政策 (2016年4月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。